



すべての子どもに 幸あれ
For the Happiness of All Children

鈴木鎮一 生誕 120 周年記念
第 54 回スズキ・メソード

グランドコンサート

2018.4.4 (WED) 両国国技館 14:00 開演

公益社団法人
主催: 才能教育研究会

協力: (一社)エル・システムジャパン カシオ計算機株式会社

後援: 文部科学省 長野県 松本市 ベネズエラ・ボリバル共和国大使館 (公社)日本医師会 日本チェロ協会 毎日新聞社 TBS

古界の 夜明けは 子供から

族
一



Contents

もくじ

- 04 ご挨拶
- 08 プログラム
- 09 プロフィール
相馬子どもオーケストラ・大槌子どもオーケストラ
金森 圭司
- 10 曲目解説
- 12 特集：インタビュー
チエリスト
宮田 大 (みやた だい)
- 14 特集：生誕 120 周年
鈴木鎮一先生
その生涯
19世紀末から20世紀末まで激動の時代を
駆け抜けた波乱万丈な軌跡をたどる
- 22 協賛者一覧



第52回グランドコンサート



夏期学校午後のコンサート



夏期学校ヴァイオリン科グループレッスン



夏期学校ヴァイオリン科マスタークラス



創始者
鈴木 鎮一
1898~1998

すべての子どもに 幸あれ For the Happiness of All Children

地上の総ての子供が人間として好ましい心、美しい感覚、言葉の
ような立派な能力、正しさを知る力、に育てられる時代をつくる
ことが、われわれ大人に与えられた一つのつとめであることを思う。
平和への道もここにより外にないであろう。

地上の総ての子供の上に幸あれ



松本支部主催「第19回ピアノ10台コンサート」



「学びのフェス2017」に出演



スズキ・メソード関西オーケストラコンサート2018



スズキチルドレン ピアノコンサート



ピアノ科卒業式



夏期学校ピアノ科連弾クラス



夏期学校ピアノ科マスタークラス



夏期学校フルート科グループレッスン



春休みこどもフェスティバル



夏期学校フルート科マスタークラス



全国指導者研究会での70周年記念一般公開プログラム

すべての子どもに幸あれ For the Happiness of All Children

今回で54回目となるスズキ・メソードのグランドコンサートを、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、また、高円宮妃殿下および各國の大使閣下の御来駕を仰いで、『鈴木鎮一生誕120周年記念』として開催できることは、子どもたちにとっても、主催者にとっても、大変に光榮なことです。

スズキ・メソードを72年前に創始された故鈴木鎮一先生は、「どの子も育つ、育て方ひとつ」の信念のもと、音楽を通じて人を育てるに生涯を捧げられました。本日のコンサートで演奏されるお子さんたちも、きっとさまざまな分野で活躍して行かれるでしょう。

もちろん、音楽分野でも、特別演奏されるチェリストの宮田大さん、昨年第86回日本音楽コンクールで一位に輝いた、大関万結さん（ヴァイオリン部門）、香月麗さん（チェロ部門）をはじめとし、多くの若い音楽家がスズキ・メソードから育っています。

私事になりますが、東京大学で物理学の教授をつとめた私は、幼少時に鈴木先生に直接の教えを受け、1964年には「テン・チルドレン」のメンバーとして、第一回目のスズキの海外演奏旅行に参加しました。このツアーは、その後スズキ・メソードが全世界46カ国に広がる契機となったと聞いています。

ツアー帰国後の1965年に東京体育館で開催された11回目のコンサートに、皇太子時代の両陛下が御臨席されたこと、コンサートのプログラムに、ニューヨークタイムズなどによるテン・チルドレンの反響が掲載されたことは、忘れられない思い出です。

ところで、第53回グランドコンサートは、2011年3月に開催予定でしたが、直前に発生した東日本大震災のため、中止を余儀無くされました。あれから丸7年あまりを経過した今、被災地の復興の姿が見えはじめています。その象徴として、今回のコンサートには、東日本大震災のあと、福島県の相馬市と岩手県の大槌町に結成されたエル・システムジャパンの子どもオーケストラの皆さんをお招きしました。

本日のコンサートは、「すべての子どもに幸あれ」という鈴木先生の、そして私たち皆の願いを込めて行ないます。鈴木先生の教え通り、立派に育ったスズキ・メソードの子どもたち、そして、音楽の力で心の復興をとげたエル・システムジャパンの子どもたちの、喜びにあふれた音が、国技館に響きわたることでしょう。



公益社団法人 才能教育研究会

会長 早野 龍五

Ryugo Hayano
President,
Talent Education Research Institute



スズキの指導者、ご家族、友人の皆さんへ Dear Suzuki teachers, families and friends,

We are very pleased to be able to hold this concert for the children, the teachers and all involved in celebration of the 120th anniversary of Dr. Suzuki's birth. For this 54th Grand Concert, it is a great honor to have the presence of His Imperial Highness the Emperor, Her Imperial Highness the Empress, Her Imperial Highness the Princess of Takamado and ambassadors from various countries.

The Suzuki Method was founded 72 years ago by Shinichi Suzuki who dedicated his life to nurturing children through music with the belief that "All children grow, it depends on how they are raised." The children performing here today will go on to be active in a variety of different fields.

Of course, there are also many fine young musicians that have been raised through the Suzuki Method. To mention a few, cellist, Dai Miyata who will be giving a special performance for us today. Also, 2 students, Mayu Ozeki(violin) and Urara Katsuki (cello), both won first place last year in the 86th Music Competition of Japan.

To share my personal experience, I was a physics professor at Tokyo University. However, as a child I studied directly with Dr. Suzuki; and in 1964, I was a member of the first "Suzuki Ten Children" tour group that traveled abroad. I have heard that this tour was the beginning of the Suzuki Method spreading to 46 countries and regions throughout the world.

After returning from the tour, in 1965, we had a concert in the Tokyo Taiikukan. I have a very strong memory of His Imperial Highness the Emperor (who was at that time the Crown Prince) sitting in the audience and an article from the "New York Times" about the "Suzuki Ten Children" tour in the concert program. The 53rd Grand Concert was supposed to be in March of 2011, but it was cancelled because of the Great East Japan Earthquake. It has been 7 years since the earthquake, and we are beginning to see reconstruction of the effected area. One portion of today's concert will be performances by the children from the El Sistema Japan Orchestra, an organization which demonstrates the efforts being made to support the children of Soma city and the town of Otsuchi after the Great East Japan Earthquake.

Dr. Suzuki's wish was, "For the Happiness of All Children" and we all join in this wish for today's concert. As the children who have developed fine abilities through the Suzuki Method and the El Sistema children who have once again found joy through the power of music play together, their joyful sound will resonate throughout the "Kokugikan" filling it with the "happiness" Dr. Suzuki wished for all children.

40年前の1978年3月、東京の武道館で行なわれたスズキ・メソード・グランドコンサートに、私は初めて参加しました。

1977年9月より松本に住み、鈴木先生の下で研究生として勉強を始めて1年目のことです。それまで、私は映像でしかグランドコンサートを見たことがありませんでした。しかし、今や実際にその廊下に立ち、かの名高いイベントのフロアで生徒や先生のお手伝いをしているのです。鈴木先生ご夫妻は日本の皇室ご一家の方々と一緒にボックス席にいらっしゃいました。その年は、およそ3000人の生徒が演奏に参加していました。それは圧倒されるほどの経験でした。その時より、私はアメリカでプロの指導者として過ごしています。最初はテネシー州のメンフィス、そして今はニューヨーク市です。その間、大変名誉で幸運なことに、私は多くの素晴らしいスズキの先生方に出会い、ご指導をいただくことができました。一部の方のお名前を挙げさせていただくと、ルイス・ペーレント、本多優子、ジョン・ケンドール、森ゆう子、ウィリアム・スターなどです。彼らの助言やサポート、そして他にもたくさんの方々の手助けにより、私はSAAのティーチャー・トレーナーとなり、その後にISAヴァイオリン科委員会委員長、そして今ではISAのCEOに就任しました。私に託されたスズキの遺産と、鈴木先生が始めたこの素晴らしい仕事を受け継いだ方々に対し、私は計り知れないほどの感謝と責任を感じています。昔の話ですが、研究生は全員、卒業演奏会の最後に指導者としての宣誓を鈴木先生に披露していました。これらの言葉は、今年のグランドコンサートのようなイベントの時など、今でも私たちに響いてきます。

「私どもはすべての子供たちの育て方一つで育つその高い教育の可能性を知り、その能力を開発し、世界に向かってその事実を示そうとする大いなる目的を持っております。」

今日のコンサートに来ているすべての生徒、保護者、指導者の皆さんに心よりお祝い申し上げます。鈴木先生のメッセージは、あなた方の演奏の中に息づいています。

プロフィール Profile

アレン・リーベ

国際スズキ協会CEO及び国際スズキ協会ヴァイオリン科委員会委員長を務める。鈴木鎮一の下で2年間学んだ後、1979年に才能教育音楽学校を卒業。1981～1991年の間に4度松本に戻り、才能教育研究会でレッスンと見学を続けている。1983年、1989年、1999年、2013年に日本で行なわれた4度の世界大会すべてに参加し、ヴァイオリンの指導担当を務める。1981年にアメリカスズキ協会よりティーチャートレーナーの認定を受ける。アメリカ各地、カナダ、中央アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オーストラリア、ニュージーランドの協会、ワークショップ、大会で指導を行なう。アメリカスズキ協会ヴァイオリン科委員会委員長兼アメリカスズキ協会ヘリテージ委員会メンバー。ニューヨーク市在住。スクール・フォー・ストリングスにおけるヴァイオリン学部長兼ティーチャートレーニング専任講師、ディーラー・クウェイル音楽学校ヴァイオリン講師、VH1セイブ・ザ・ミュージック財団弦楽顧問。

国際スズキ協会CEO
アレン・リーベ

Allen Lieb, CEO
International Suzuki Association



Forty years ago in March 1978, I attended my first Suzuki Method Grand Concert held at the Budokan in Tokyo. I was in my first year of study as a kenkyusei with Dr. Suzuki, living in Matsumoto since September 1977. Previously I had only seen film of the Grand Concerts, but now I was actually in the hallways and on the floor of this famous event assisting students and teachers. Dr. and Mrs. Suzuki were seated in their box with members of the Japan royal family. There were approximately 3000 students performing that year. It was an overwhelming experience. Since that time, I have spent my professional life teaching in the United States: first in Memphis, TN, and now in New York City. It has been my privilege and great fortune to have had many wonderful Suzuki mentors during this time - Louise Behrend, Yuko Honda, John Kendall, Yuko Mori, William Starr - just to mention a few. Through their mentorship and support, and that of so many others, I became a Teacher-Trainer for the SAA, subsequently the Chair of the ISA Violin Committee, and now the CEO of the ISA. I feel an immense amount of gratitude and responsibility for the Suzuki legacy that has been entrusted to me, and for those of us who continue this great work Dr. Suzuki began. Many years ago, all kenkyusei would recite the Teachers' Pledge to Dr. Suzuki at the close of their graduation recital. These words still resonate with us at events like this year's Grand Concert.

"We realize the possibilities of early education. We also realize that every child can be

educated. Our purpose is to develop this ability and present this fact to the world."

Congratulations to all the students, parents and teachers in today's concert. Dr. Suzuki's message lives on in your performances.

Allen Lieb is CEO of the International Suzuki Association, and Chair of the ISA Violin Committee. He graduated from the Talent Education Institute in 1979 after two years' study with Dr. Suzuki. Mr. Lieb returned to Matsumoto four times between 1981 - 1991 to continue his lessons and observation at the Institute. He has been on the violin faculty for all four Suzuki World Conventions held in Japan - 1983, 1989, 1999 and 2013. Mr. Lieb has been a recognized Teacher-Trainer with the Suzuki Association of the Americas since 1981. He has taught at institutes, workshops and conferences across the United States, Canada, Central America, Europe, Asia, Australia and New Zealand. He is Chair of the SAA Violin Committee and a member of the SAA Heritage Committee. Residing in New York City, Mr. Lieb is Head of the Violin Department and Instructor for Teacher-Training at The School for Strings, violin instructor at The Diller-Quaile School of Music, and a string consultant for the VH1 Save The Music Foundation.

まかれた種 Planted Seeds

エル・システムの弦楽器教室は、39年前の小林武史先生による集中的なご指導とスズキ・メソードの教本贈呈等のご支援が礎となりました。それに先立つ1964年、創設者アブレウ博士の右腕となるヴィオラ奏者フランク・ディ・ポロ氏が、鈴木鎮一先生率いるテン・チルドレンの米国での演奏を聴き感銘を受けており、この時のテン・チルドレンのお一人が、現早野会長でいらっしゃったという深いご縁があります。

エル・システムは、その後現地の伝統音楽文化も背景に発展し、子どもたちが困難な環境にあっても、オーケストラや合唱活動を通して自らの人生を豊かにしていく無償の教育活動として、世界70国・地域に広がっています。米国、カナダ、ブラジル、ケニア、アイルランドでは、スズキ・メソードを学ばれた先生方が指導の中心です。

東日本大震災の被災地から始まった日本のエル・システム活動は、様々な団体や個人のご寄付を財政基盤とし、届きにくかった子どもたちも包摂する理念を持って一步一歩進んでおります。

鈴木先生がまかれた種の広がりに思いを馳せつつ、こうして日本でハーモニーを奏でる巡り合わせを尊きご尽力くださいました皆さんに、厚く御礼申し上げます。

子どもたちの幸せを願って Wish for the Happiness of Children

本日は、第54回スズキ・メソードグランドコンサートにお越し頂き誠にありがとうございます。1955年から始まつたこのコンサート、今年は本会創立者鈴木鎮一先生誕120年の年にあたり、それを記念し9年振りに開催いたします。今回はその創立から深い縁のあるエル・システムジャパンの相馬子どもオーケストラと大槌子どもオーケストラの皆さんとの共演が実現致しました。遠方よりお集まり下さった皆様に心より感謝申し上げます。音楽を通して子どもたちを立派な人に育てるという共通の目的を持った二つの組織が、今日ここに共演できることは大変意義のある事だと思います。鈴木先生は常々仰っておられました。「音楽などの文化的能力は、生まれながらの物ではなく生まれた後の環境によって育つものである。すべての子どもたちは高い能力に育つ可能性を持っており、その可能性の高さはただ途方に暮れるばかりである」と。その事を、このグランドコンサートは実証してまいりました。今回も子どもたちの高い能力に感動させられる事と思います。

今まで深い愛情のもと子どもたちを導いて来られた保護者の皆さんに心からの賛辞を贈らせて頂きます。子どもたちの幸せを願い、ともに力を合わせてこれからも邁進して行きたいと思います。それでは、子どもたちの至純な演奏を最後までお楽しみください。本日は誠にありがとうございました。



一般社団法人
エル・システムジャパン代表理事
菊川 穂

Yutaka Kikugawa,
Executive Director/CEO,
El Sistema Japan

The foundation of the El Sistema string program began 39 years ago with Mr. Takeshi Kobayashi's intense instruction and presentation of the Suzuki Method Books. Before Mr. Kobayashi went to Venezuela, Frank di Polo, violist and right-hand man of El Sistema founder Dr. Abreu, was impressed by the performance of the "Suzuki Ten Children" tour group that visited the United States with Dr. Shinichi Suzuki in 1964. And now, this connection to the Suzuki Method seems even deeper, since the current TERI president, Dr. Hayano, was one of the children in that "Suzuki Ten Children" tour.

El Sistema which uses traditional music of that culture to enrich the lives of children in challenging environments through participating in orchestra and chorus has spread to 70 countries and regions all over the world. In the United States, Canada, Brazil, Kenya, and Ireland, the teachers who play active roles in El Sistema are trained Suzuki teachers.

El Sistema Japan began after the Great East Japan Earthquake with the purpose of reaching children affected by the disaster. It is supported by various organizations and individuals, and has been progressing step-by-step.

As we think about how the seeds Dr. Suzuki planted have blossomed, we would like to express our sincere gratitude to everyone whose hard work has given us this precious opportunity of performing our harmony here in Japan.



Thank you very much for coming today to the 54th Suzuki Method Grand Concert. The first Grand Concert was held in 1955, and this year we hold it again for the first time in 9 years to commemorate the 120th anniversary of the birth of Dr. Shinichi Suzuki, the founder of the Suzuki Method. As part of our concert, our students will perform with the Soma Children's Orchestra and the Otsuchi Children's Orchestra of El Sistema, which has had a foundation deeply related to the Suzuki Method since they were established.

I would like to express my gratitude to everyone who traveled so far to join today's concert.

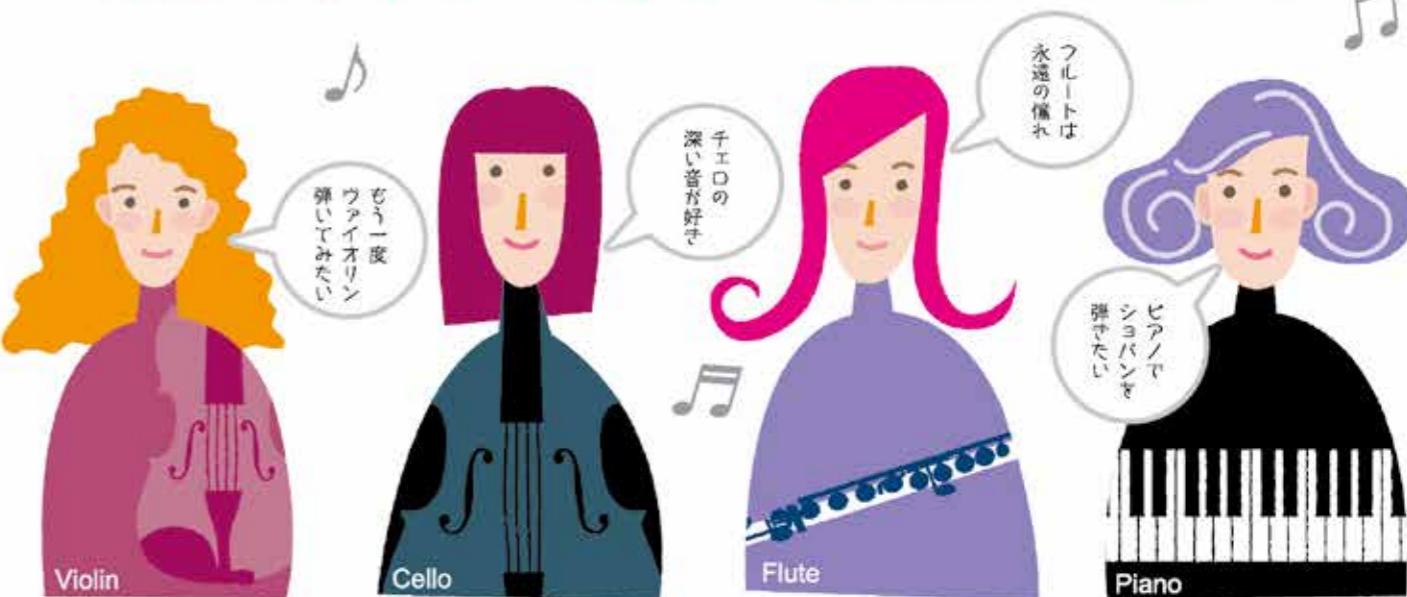
I think that it is very meaningful to have two organizations with the common purpose of raising children to become fine people through music perform together here today. Dr. Suzuki repeatedly said, "Ability, like musical ability, is not an inborn talent, but rather cultivated through a nurturing environment. All children can be raised to develop a high ability. The potential of every child is unlimited." This Grand Concert is proof of this statement. I believe that once again many will be truly moved by the performances of these children.

I would like to commend all parents who have guided and supported their children with deep affection. For the happiness of children, I hope that we will continue to work together and move forward. I hope that you will enjoy the purity of these children's performances to the very end. Once again, thank you very much for attending today.

大人のスズキ

いつでも、いつからでも。

ヴァイオリン・ピアノ・チェロ・フルート



初めての方もプランクのある方も



スズキで音楽を始めましょう♪

スズキ・メソード関東地区は
第54回スズキ・メソード
グランドコンサートを応援しています

お問い合わせは下記フリーダイヤルまたはHPへ

0120-556-414

(月~金 10:00~17:00)

大人のスズキ

検索

<http://www.suzukimethod.or.jp/>

スズキ・メソードの
教室は全国にあります。
海外にも教室があり、
多くの方がレッスン中！

Program

演奏曲目



ピアノ Piano:

グランドピアノ 2台と電子ピアノ 20台による Performed on 2 grand pianos and 20 electronic pianos

- 「動物の謝肉祭」より 序奏とライオンの行進・化石
Introduction and Royal March of the Lion, Fossils from "The Carnival of the Animals"
サン=サーンス
Saint-Saëns
- エコセーズ
Ecossaise
フンメル
Hummel
- ソナタ K.331 第3楽章
Sonata K. 331 3rd mov.
モーツアルト
Mozart



フルート Flute:

- メリーさんの羊変奏曲
Mary had a little Lamb Variations
高橋利夫編
arr. Toshio Takahashi
- 荒城の月
The Moon on the Ruined Castle
滝廉太郎
Rentaro Taki
- 歌の翼に
On Wings of Song
メンデルスゾーン
Mendelssohn
- バレエ音楽「くるみ割り人形」より 葦笛の踊り
Dance of the Mirlitons from "The Nutcracker" ballet music
チャイコフスキイ
Tchaikovsky
- 2本のフルートのための協奏曲 第3楽章
Concerto for 2 Flutes 3rd mov.
チマローザ
Cimarosa



チェロ Cello:

- 讃歌
Hymns
クレンゲル
Klengel
- 「動物の謝肉祭」より 白鳥
The Swan from "The Carnival of the Animals"
サン=サーンス
Saint-Saëns
- スケルツォ
Scherzo
ウェブスター
Webster
- フランス民謡
French Folk Song
外国人謡
Folk Song



ヴァイオリン Violin:

ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 第3楽章 Concerto in e minor 3rd mov.

特別演奏 Special Performance:

宮田 大 (スズキ・メソード出身チェリスト) Performed by Dai Miyata (a cellist who was a former student of the Suzuki Method)

- コル・ニドライ
Kol Nidrei
ブルッフ
Bruch

ヴァイオリン Violin:

- ソナタト短調 第1, 2楽章
Sonata in g minor 1st & 2nd mov.
エックレス
Eccles
- アレグロ
Allegro
フィオッコ
Fiocco
- 2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 第1楽章
Concerto for 2 violins in d minor 1st mov.
バッハ
Bach
- ユーモレスク
Humoresque
ドヴォルザーク
Dvořák

全科による合奏 Performances By All-Course Students:

- 二人のてき弾兵
The Two Grenadiers
シューマン
Schumann
- 狩人の合唱
Hunter's Chorus
ウェーバー
Weber
- メドレー (アマリリス・フランス民謡・楽しい朝・アレグロ)
A Medley (Amaryllis, French Folk Song, Andantino, Allegro)
加藤千春編
arr. Chiharu Kato

フィナーレ Finale:

- キラキラ星変奏曲
Twinkle Twinkle Little Star Variations
鈴木鎮一
Shinichi Suzuki

ピアノ伴奏：石川咲子
臼井文代

招待演奏 Guest Performance:

エル・システムジャパンの子どもオーケストラによる演奏 Performed by the Children's Orchestra of El Sistema Japan

- アイネ・クライネ・ナハトムジーク 第1楽章
Eine kleine Nachtmusik 1st mov.
モーツアルト
Mozart
- 管弦楽組曲 第3番よりアリア
Air from Overture (Suite) No.3
バッハ
Bach

オーケストラ Orchestra:

スズキ・メソードとエル・システムジャパンの子どもたちによる 合同オーケストラ / 指揮 金森 圭司 Performed by a joint orchestra of the children of El Sistema Japan and the Suzuki Method

- 交響曲第7番 イ長調 第4楽章
Symphony No.7 in A Major 4th mov.
ベートーヴェン
Beethoven

休憩
~Intermission~

Profile

プロフィール

相馬子どもオーケストラ・ 大槌子どもオーケストラ

エル・システムジャパンは、子どもたちにオーケストラやコーラスを広く開いていく音楽教育活動を、福島県相馬市、岩手県大槌町、長野県駒ヶ根市、東京都（活動開始順）で行なっています。経済的負担なしに、子どもが集団で楽しく学び・発表する機会を持つようにしていることが特徴で、芸術に触れる経験が少なかったり、障害をもっていたり、社会的な困難さに直面している子どもたちにも場を開いています。音楽の喜びを通じて、子どもたちは自己表現の追及はもとより、周りの人の出す音や動きを感じる力を身につけながら自分の役割を果たすことを学んでいます。



金森 圭司 (かなもり けいじ) 指揮

4歳よりスズキ・メソードにてヴァイオリンを始める。慶應義塾大学法学部を卒業と同時に東京藝術大学に入学。NHK 交響楽団などでヴァイオリニストとして演奏する



傍ら、桐朋学園大学で指揮を尾高忠明氏に師事。その後、医師を志し医学部へ再入学。卒業後東京大学病院勤務、大学院博士課程などを経て、東京都港区に広尾かなもりクリニックを開設。世界50ヵ国約1000人の医師が所属するワールド・ドクターズ・オーケストラのコンサートマスターを務めている。

子どもたちのキラキラした表情が大好き。今日の演奏で、子どもたちがどんな表情をしてくれるのか、実は、とても楽しみにしています。



チェリスト 宮田 大さん

機関誌『Suzuki Method』200号の連載企画「先輩、こんにちは」に登場されたチェリストの宮田 大さん。いろいろな興味深いお話を伺いましたが、ここでは、グランドコンサートについてのお話を中心に、インタビュー形式で紹介します。

©Daisuke Omori

それでは、まずグランドコンサートについての思い出をお聞かせください。

宮田 いつからグランドコンサートに通うようになったか覚えていませんが、宇都宮から父母と一緒に新幹線に乗って東京に来るのは、毎回ちょっとした家族旅行でした。九段下の駅から坂道を登り、田安門から入って日本武道館に何度も来ました。

今回は日本武道館ではなく、両国の国技館ですので、普段は大相撲などが行なわれる会場でもあり、どんな感じになるのか、とても楽しみです。

最初に楽器を始めたのがスズキ・メソードでしたし、何と言っても楽しみなのは、キラキラした目で小さな子どもたちが自分の演奏を聞いてもらえることです。それを想像すると自分も歳を重ねてきたなと(笑)。日本の各地で演奏すると、「スズキ・メソードで習っています」というお子さんと先生たちがたくさん来てくれるし、今回、また会えるのが楽しみです。とてもない数の子どもたちが集合するでしょうから、どういう感じの演奏会になるか、それもとても楽しみです。自分の中では、いつもと違うので、どんな刺激をいただけるかなと。

子どもたちと一緒に交わることが大好きですね?

宮田 そうですね。スズキ・メソードの指導者である両親の影響もあって、小学校高学年時に、グループレッスンで小さな子どもたちと一緒に話したり、演奏するなど、いろいろな思い出があります。一人っ子で育ったことも原因かもしれません。やっぱり可愛いなあと思います。最近も、栃木県のいろいろな小学校で演奏する機会がありました、「最初はどんな感じだろう?」

と授業の一環で聴いていた子どもたちが、演奏が進むにつれ、どんどん集中して、最後はキラキラした目に変化てくるのをいつも感じられたので、今回の国技館でも、またあるのかなと思います。音楽の持つパワーを考えると、子どもたちと接する時に音楽があることは、とてもいいことです。

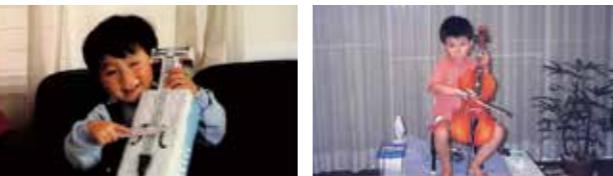
子どもたちの変化を楽しみ、さらに大人自身も子どもたちからインスピアを受けるのですね?

宮田 そうですね、子どもたちの感覚はとてもシンプルです。演奏後のサイン会で並んでくれた子どもたちに「どうだった?」と聞くと、「この曲が良かった」「きれいだった」「会場が大きかった」とか「チェロがキラキラしていた」などいろいろな意見をもらえます。大人にわからない目線がストレートに自分を受け入れてくれているところに、子どもたちの言葉や感情のパワーを感じます。自分も母親に連れて行ってもらったヴァイオリニストの竹澤恭子さんの演奏会は、今でも鮮明に覚えています。そうした子どもの頃の思い出があるので、10年後に、「宮田さんの演奏を聴きに行きました」と言われることが、今後あるといいですね。

今回、グランドコンサートで演奏される曲として、ブルッフの「コル・ニドライ」を選ばれました。

その理由はどんなところにありますか?

宮田 大人が弾くサイズのチェロの音を聴いていただく時に、チェロは人間の声に近い音域なので、歌心のある曲を選びたいなと、まず思いました。テンポが速かったり、テクニックを見せる小品でも良かったわけですが、やはり神様と対話するような



ティッシュボックスで作られた箱チェロで立派なチェリスト気分。2歳頃



晴れた日は庭で弾いたり、コタツの上に椅子を置いて、演奏会気分で練習したり、目先を変えた練習スタイルを楽しみました



クロンベルク・アカデミーでは、世界的な奏者との交流も盛ん。写真は、ヴァイオリン奏者のギドン・クレーメル(中央)との1枚



大人の成長ぶりを我がごとのように喜ぶ小澤征爾さんとの共演は、ドキュメンタリー番組にも取り上げられました



夏期学校では毎年のように協奏曲を演奏(ピアノは、懐かしい佐古先生)



2016年の夏期学校「夜のコンサート」で宮澤賢治の「セロ弾きのゴージュ」を演奏した宮田大さん。表現の幅、音色の多彩さで聴衆を魅了しました



鈴木頼一先生と右後ろの青木謙幸先生が宇都宮に来られた時に、駅までお見送りした時の写真。宮田豊先生、佳代先生と2歳頃の大さん

わが孫が演奏しているところをご覧になられての思い出でもいいので、何かしらの思い出を、ずっと大人になっても忘れないくらいの思い出を持って帰ってもらったら、とても嬉しいです。そして、何よりもチェロという楽器を好きになってほしいなと思いますね。

チェロ科の生徒には、いかがでしょうか?

宮田 3歳からチェロを始めましたが、きっかけは2歳半からヴァイオリンを始めたものの、落ち着きがなく、立って練習することができないので、チェロに変わったくらいの子どもでした(笑)。そういうわけで、チェロを始めたくて始めたのではありませんが、今、31歳になって、ずっとチェロを続けてきてよかったなと思っています。練習を続けてゆくことは大変なことですが、チェロの音を一音でも出した時に、それが心臓に響いて、一つでも情感的なものが込めることができるといいし、何よりも楽しんで毎日の練習を続けてもらえたと思うと嬉しいです。今日は、遠方から参加の皆さんもたくさんいらっしゃるでしょうし、会場で会えるのをとても楽しみにしています。

ありがとうございました。演奏を楽しみにしております。

インタビュー:新巳喜男



プロフィール

栃木県宇都宮市出身。両親ともスズキ・メソードの指導者のものと、3歳よりチェロを始める。幼少よりその才能は注目を集め、9歳より出場するコンクール、第74回日本音楽コンクールを含むすべてに第1位入賞を果たす。2009年、第9回ロストロボーヴィチ国際チェロコンクールで日本人として初優勝。第6回齋藤秀雄メモリアル基金賞、第20回出光音楽賞、第13回ホテルオーケラ音楽賞など華やかな受賞歴を持つ。第35回江副育英会奨学生。ローム・ミュージックファンデーション奨学生。

桐朋学園音楽部門特待生、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースを首席で卒業。2009年にジュネーヴ音楽院卒業、2013年6月にクロンベルク・アカデミー修了。チェロを倉田澄子、フランス・ヘルベルソンの各氏に、室内楽を東京クラフト、原田禎夫、原田幸一郎、加藤知子、今井信子、リチャード・ヤング、カボル・タカーチ=ナジの各氏に師事する。

これまでに国内の主要オーケストラはもとより、パリ管弦楽団、フランクフルトシンフォニエッタ、S.K.ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団などと共演。小澤征爾をはじめ、ハレル・クレーメル、パシフィック・ワーゲン、ウェンゲーロフ、デュメイ、日本を代表する多くの演奏家・指揮者と共に演奏し、国内外の音楽祭やソロ活動を活発に行なっている。

マスメディアへの出演も多く、「小澤征爾さんと音楽で語った日～エリスト・宮田大・25歳～」(芸術祭参加作品)、「カルテット」という名の青春、「NHKワールド "Rising Artists Dai Miyata"」などのドキュメンタリーのほか、「クラシック音楽部」「らららクラシック」「題名のない音楽会」などにも複数回出演している。

最新のCD第3弾は「木漏れ日」。DVD&ブルーレイ「小澤征爾指揮 水戸室内管弦楽団2012～チェロ独奏 宮田 大～」。使用楽器は、上野製薬株式会社より貸与された1968年製ストラディヴァリウス「シャモニー」。



先生 鈴木 鎮一 その生涯

19世紀末から20世紀末まで、人類の歴史の中でも最も激動の時代をフルに駆け抜けた鈴木鎮一先生の生涯は、すこぶる波瀾万丈、そのめくるめくような軌跡をたどるだけで、大河ドラマを読破したような満足感があります。ヨーロッパの伝統文化に裏打ちされた芳醇な香り、戦後の日本に大きな灯をともした才能教育運動の拡大、そして新大陸アメリカでの熱狂…。さらには、ベネズエラで生まれた社会教育運動として全世界に波及したエル・システムの創設にも貢献した事実。今日では世界46カ国と地域で40万人に及ぶ生徒たちが、スズキ・メソードを通して、日々の生活を豊かにしています。

鈴木先生の思いは今でも色褪せることなく、新たな地平を築かんとさまざまな動きに結実しました。最近では幼児教育の分野での非認知能力(やる気を生む力、集中力の育成など)の重要性が国際的な話題になるにつれ、鈴木先生の教えに改めて注目が集まります。世界のそこかしこに、スズキ・メソードがあり、鈴木先生の蒔かれた種が大きな樹木に育っているのです。その思いは、今回のグランドコンサートのキャッチコピー「すべての子どもに幸あれ」で象徴的に表現されています。

2018年、鈴木鎮一先生生誕120年を記念し、ここに、その生涯を記します。また、エル・システムとの関係についても触れております。



誕生、そして感性を磨いた 10代

1898年(明治31年)

10月17日、名古屋市東門前町に生まれる。父・政吉、母・良。鈴木家は代々武士の家系で、内職に始めた三味線作りが明治維新後には家業となっていた。父政吉は三味線を作っていたが、西洋楽器に触れ、ヴァイオリン製作を思い立つ。何度も失敗を繰り返し、血のにじむような研究を重ね、1888年(明治21年)に国産ヴァイオリンを初めて製作。のちにヴァイオリン製作工場を設立した。

父 政吉



母 良



第一次世界大戦の勃発でドイツ製のヴァイオリンの供給が絶たれ、世界の目が日本に注がれた大正期には、1,000人を超える従業員を擁し、月に500本のヴァイオリンと1,000本の弓を製造し、海外に輸出する世界一大工場になっていた。

1905年(明治38年)6~7歳

名古屋市立高丘小学校に入学。1年から6年まで担任の柴田先生の温厚な人柄に大きな感化を受ける。

1910年(明治43年)11~12歳

市立名古屋商業学校入学。同校のモットー「一に人物、二に技量」の精神は、その後の生き方の指針ともなる。夏休みや放課後などヴァイオリン工場を手伝う。



1915年(大正4年)16~17歳

このころ『トルストイ日記』を愛読。強い感銘を受ける。以後、禅や西洋哲学の書に親しむ。同じ頃、父が購入した蓄音機でミッシャ・エルマンの弾くシューベルトの「アヴェ・マリア」を聴き、感動を受ける。これをきっかけに本格的なヴァイオリンの練習を始める。



1914年第一次世界大戦の勃発とともに、世界からヴァイオリンの大量注文が相次ぎだ鈴木バイオリン工場

ドイツへの留学を果たした 20代

1918年(大正7年)19~20歳

この年の秋頃から呼吸器疾患で肺尖カタルの恐れありと診断され、静岡県興津の旅館で約3ヶ月間の療養をする。この間、同宿した北海道の事業家・柳田一郎一家と親しく交際。



1919年(大正8年)20~21歳

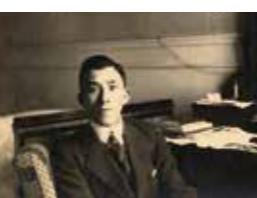
8月、柳田の紹介で徳川義親(よしちか)侯爵ら一行の北千島探検旅行に参加。徳川侯爵や同行のピアニスト・幸田延(幸田露伴の妹)にヴァイオリンの本格的勉強を勧められる。



クリングラーは、ブルームスの友人だったヴァイオリニスト、ヨアヒムの弟子。その端正な演奏と比類なき格調の高さは、鎮一に大きな影響を与えた

1920年(大正9年)21~22歳

この春、父・政吉の許しを得て上京、徳川侯爵家に寄宿し、ヴァイオリンを安藤幸(幸田露伴、延の妹)に師事。安藤の勧めもあって、上野の東京音楽学校(現在の東京藝術大学)入学をめざすが、同校の卒業記念演奏会での学生の演奏を聴いて失望、受験を断念。以後、ヴァイオリンの他、弘田龍太郎に楽典を、田辺尚雄に音響学などを学ぶ。徳川侯爵家を訪れる物理学者・寺田寅彦、音声学の大家・鷗田琴次らからも薫陶を受ける。



大望を抱いてベルリンに留学した鎮一。夢の実現に向けて一心不乱に芸術と格闘していた頃。留学の充実ぶりと気品を感じさせる



アインシュタイン博士を鎮一に引き合せた立役者、ミハエリス教授夫妻と、ベルリンから一時帰国した鎮一が名古屋で再会した時のもの

1921年(大正10年)22~23歳

10月、徳川侯爵らの世界一周旅行に同行し、途中寄港したマルセイユで一行と別れ、ドイツへ留学。ベルリンで師を選ぶために音楽会めぐりをする。



アインシュタイン博士の自画像

1922年(大正11年)23~24歳

知人の紹介で聴いたクリングラー・クワルティエの演奏に深く感動。カール・クリングラー(ベルリン高等音楽学校教授)を訪ね、弟子を取らないはずのクリングラーの唯一の内弟子となつた。鎮一は、クリングラーから、その高い芸術性に加え、人間としてどうあるべきか、という生きた人間教育の薫陶を受けた。



1925年(大正14年)26~27歳

当時、親交を結んでいた医学者ハンス・ミハエルス教授の紹介で、物理学者アルバート・アインシュタイン博士やその知己たちとの交際が始まり、人間的感化を受ける。この頃、知人宅で催されたホームコンサートで、のちに夫人となるワルトラウト・プランゲとめぐり会う。この年一時帰国し、11月には東京の邦楽座で帰朝演奏会を開き、好評を博す。再びベルリンへ。

子どもの可能性に目を向け始めた 30代

1928年(昭和3年)29~30歳

2月8日、5年にわたり愛を育んだワルトラウト・プランゲとベルリンで結婚。この頃、演奏の力量を認められ、ベルリンでフランクの「ソナタ」を録音、ドイツ・グラモフォンからリリース。日本人初のソナタ全曲録音であり、日本人初の本格的なクラシック音楽の海外でのリリースだった。新婚生活4ヵ月が過ぎた頃、母・良危篤の報を受け、急遽帰国。のち、章、二三雄、喜久雄の三人の弟と「鈴木クワルテット」を結成。まもなく東京へ移り、ラジオ出演や各地でのコンサート開催など活発な演奏活動を始める。この頃より国立音楽学校講師を務める。



まるで銀幕から飛び出してきたような気品と輝きの持ち主だった二人。急遽帰国した日本で好奇の目に晒された夫人を支えたのは、もちろん鎮一だった

1931年(昭和6年)32~33歳

クワルテットの活動を続けながら、東京世田谷に創設された帝国高等音楽学院の教授に就任。教授陣は、声楽の柳兼子(柳宗悦夫人)、森民樹、平間文寿、楽理に青木謙幸、野村光一、ピアノは高木東六、チェロがコンスタンチン・シャピロ、ヴァイオリンにアレキサンダー・モギレフスキーラがいた。この頃、4歳の江藤俊哉が鎮一の指導を受け始める。

戦争を体験後、松本で才能教育運動を始めた 40代

1941年(昭和16年)42~43歳

9月、『力強き教育』(東洋文化叢書)を目黒書店より出版。初めて才能教育の概念とその方法を明らかにした。なお、この他に戦時中『母国語の教育法による小学校教育の改革』を出版したが、発禁処分を受ける。



1943年(昭和18年)44~45歳

戦時下で学校経営が困難となり、帝国高等音楽学院を解散。水上飛行機のフロート製作工場に転換させられた鈴木バイオリンの木曾福島工場となる。飢えと闘いながら、材料の檜の伐り出しに従事。

1944年(昭和19年)45~46歳

1月31日、「日本のヴァイオリン王」として、亡くなる3日前までヴァイオリン製作に情熱を燃やした父・政吉死去。享年84歳。

1945年(昭和20年)46~47歳

終戦後、松本市在住の文化人、渡辺幾太郎、藤本徳次、能勢豊、神田平四郎、そして中部日本新聞記者の鍛治倉邦二らが、帝国高等音楽学院時代の鈴木の同僚、森民樹(声楽家)を中心に音楽学校の開設を計画。鍛治倉が鎮一を迎えるよう木曾福島を訪れる。この頃、鎮一は両親を失った豊田耕児を木曾福島に引き取り、家族の一員として迎える。



1932年(昭和7年)33~34歳

10月、『音楽講座』(文芸春秋社刊)第9篇「絃楽」で〈ヴァイオリン及び弓の研究〉、11月、同第11篇「室内楽」で〈日本ヴァイオリン史〉を執筆。



江藤俊哉(左)、豊田耕児(右)らに教える中で、子どもたちへの指導に目覚めていた

1936年(昭和11年)37~38歳

『アルス音楽大講座』(アルス社)第6巻「絃楽器の実技」で〈カイザーの練習〉を執筆。

1937年(昭和12年)38~39歳

『誰にでも出来るヴァイオリンの音の矯正法』(大日本音楽協会叢書)を共益商社書店より出版。この間、毎日音楽コンクール審査員、国立音楽学校講師など務める。同時に、自宅で幼い江藤俊哉、豊田耕児、小林武史・健次兄弟、有松洋子、鈴木秀太郎、諏訪根自子らにヴァイオリンを指導する。3歳の豊田が演奏会でドヴォルザークの「ユーモレスク」を弾いて“天才児現る”と新聞に書かれ、11歳の江藤が毎日音楽コンクールで1位になり文部大臣賞を受けるなど、話題を呼んだ。



江藤俊哉(左)、豊田耕児(右)らに教える中で、子どもたちへの指導に目覚めていた

才能教育運動の広がりに奔走した 50代

1948年(昭和23年)49~50歳

4月、同志会を「才能教育研究会」と改称、松本に本部事務局、東京に東京事務所を開設し、所長に青木謙幸(当時理事)が就任。同月、松本市郊外本郷小学校で“落伍者をつくらない”才能教育の実験教室が上條茂校長、田中茂樹教諭らの尽力で開始。上條校長が病に倒れるまで3年間続く。11月、東京事務所より機関紙「才能教育」(タブロイド判)創刊。この間、長野、東京、愛知、三重、岐阜などで精力的に講演活動。各地で次々と支部が結成される。『才能教育』を才能教育研究会より出版。



1953年3月、東京体育館で開催された第1回全国大会。皇太子殿下(現在の天皇陛下)や多くの宮様方、各国外交団もご臨席され、1,200名の子どもたちの演奏に聴き入っていただいた

1949年(昭和24年)50~51歳

4月、松本音楽院の2階に才能教育による幼児教育をめざし「記憶力養成実験教室」を開く。後に「幼児学園」と呼称。ラジオで鎮一の考えを全国に伝え、子どもたちの街頭演奏や講演を各地で行ない、才能教育運動への賛同者を飛躍的に増やしていく。首都圏と中部地方でヴァイオリン教室は35ヶ所、生徒数1,500名を数えた。12月、「才能教育」を「タレント」(A5判雑誌型、月刊)と改称。



1952年、松本駅で子どもたちにヴィヴァルディの協奏曲で見送りされるフランスのピアニスト、アルフレッド・コルトー

1950年(昭和25年)51~52歳

8月、松本音楽院の生徒たちとともに松本市の少年刑務所を慰問。約600人の青少年に講演と子どもたちの演奏を行なう。以後、毎年のように訪問し激励。9月、機関誌「タレント」を東京・タレント社より発行。10月25日、文部省より「社団法人才能教育研究会」の設立認可がおりた。『ヴァイオリン奏法と実習』を音楽之友社より出版。

1951年(昭和26年)52~53歳

5月、中日文化賞を受賞。7月、『才能は生れつきではない』を葦会より出版。8月、長野県霧ヶ峰高原で第1回夏期学校開催。全国25支部から109名の子どもたちと11名の指導者が集う。12月、『私の奏法』を全音楽譜出版社より刊行。

1952年(昭和27年)53~54歳

1月、「タレント」を終刊し(通巻22号)、才能教育研究会本部より「才能教育会報」(A4判、月2回刊)を発刊。通巻号数は「タレント」から受け継ぐ。10月25日、東京神田の共立講堂にて才能教育ヴァイオリン科の第1回卒業式挙行。卒業生は5歳8ヵ月の最年少をふくむ196名。なお、卒業は年齢と一切関係なく実力のみで認定と決める。世の中に登場し始めたばかりのテープレコーダーの利用を主張し、各課程修了時に録音を本部に送り、鎮一自らが録音を聴き、卒業認定を行なった。この卒業制度は



1946年(昭和21年)47~48歳

9月、子どもを中心に教えるとする鎮一の要望が通り、松本市下横田に松本音楽院開設。院長に就任、松本へ移る。主な講師は、ヴァイオリンが鎮一、奥村慎三郎、松井宏中、前田忠行、ピアノが鈴木静子、青木章子、声楽は森民樹、館石唯雄ら。12月、才能教育研究会の前身である「全国幼児教育同志会」結成。『幼児の才能教育とその方法』を同会より出版。本格的に才能教育運動を開始。初めての支部となる教室を加藤潔が東京で開く。



1946年に全国幼児教育同志会が発行した「幼児の才能教育とその方法」

1947年(昭和22年)48~49歳

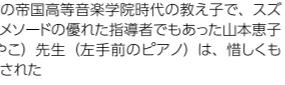
胃アトニーにかかり浅間温泉で療養、危篤状態に陥ったが漢方療法で回復。再び活動を始める。



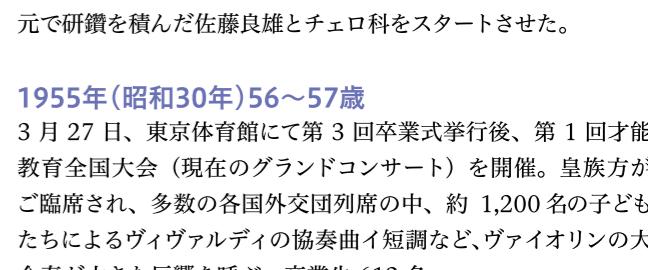
当時の松本音楽院の様子。歩きながらヴァイオリンを弾くなど、鎮一はさまざまな方法で幼児の能力を引き出すアイデアを実践した



「音楽を通じての人間づくり」「どの子も育つ、育て方ひとつ」の理想に共鳴する人たちが松本音楽院に集まり、次第に活況を呈していく

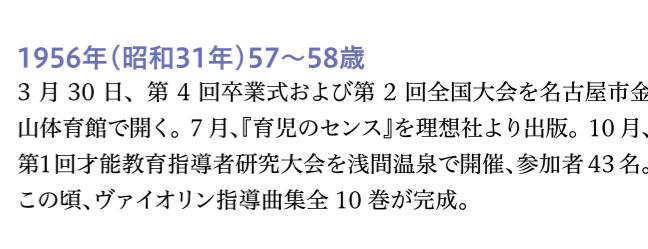


鎮一の帝国高等音楽学院時代の教え子で、スキキ・メソードの優れた指導者でもあった山本恵子(あやこ)先生(左)のピアノは、惜しくも天逝された

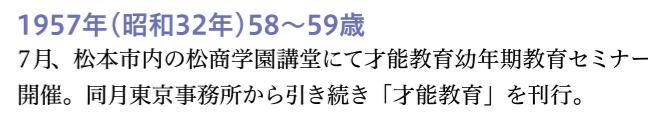


1954年(昭和29年)55~56歳

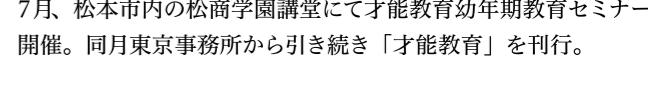
1月、『子供の運命』を才能教育研究会より出版。9月、通巻69号より「才能教育」をA5判、雑誌型、月刊とする。カザルスの元で研鑽を積んだ佐藤良雄とチェロ科をスタートさせた。



3月27日、東京体育館にて第3回卒業式挙行後、第1回才能教育全国大会(現在のグランドコンサート)を開催。皇族方がご臨席され、多数の各国外交団列席の中、約1,200名の子どもたちによるヴィヴァルディの協奏曲イ短調など、ヴァイオリンの大合奏が大きな反響を呼ぶ。卒業生613名。



3月30日、第4回卒業式および第2回全国大会を名古屋市金山体育館で開く。7月、『育児のセンス』を理想社より出版。10月、第1回才能教育指導者研究大会を浅間温泉で開催、参加者43名。この頃、ヴァイオリン指導曲集全10巻が完成。



7月、松本市内の松商学園講堂にて才能教育幼年期教育セミナー開催。同月東京事務所から引き続き「才能教育」を刊行。



海外にも大きな衝撃を与えた 60代

1958年(昭和33年)59~60歳

3月、『人間と才能』を大東京社より出版。同月、東京体育館で第4回全国大会、第6回卒業式挙行。チェロ科で初の卒業生を出す。9月、「才能教育通信」(タブロイド判、旬刊)を才能教育研究会(松本)より創刊(現在に至る)。この年、アメリカ・オハイオ州のオベリン大学で行なわれたオハイオ州弦楽指導者会議で第1回全国大会の記録映画がクリフォード・クック同大教授により紹介され、800名の子どもたちによるバッハのドッペル・コンチェルト大合奏に驚嘆の声が上がり、スズキ・メソードの海外発展のさきがけとなる。

1959年(昭和34年)60~61歳

2月、「才能教育」を通巻115号から「才能と教育」(A5判、月刊)と改題し発刊。5月、通巻118号をもって終刊。6月、第1回全国大会の映画を見たマスキンガム大学音楽部のジョン・ケンドール教授が外国人として初めてスズキ・メソード研究のため来日。この年、『ヴァイオリン指導曲集』(全10巻、全音楽譜出版社)が完成。



10人の子どもたちによる第1回海外演奏旅行の出発風景。世界にスズキ・メソードの真髄を生演奏で伝える、歴史的な旅立ちとなった

1964年(昭和39年)65~66歳

3月5日、初のアメリカ演奏旅行出発。鎮一夫妻、本多正明常任理事と2名の指導者が、6~14歳の子どもたち10名(ヴァイオリニストの大谷康子さんや早野龍五会長も含む)を伴う総勢19名。ニューヨークの国連ハマーショルド・ホール、フィラデルフィアでの全米音楽指導者会議など、アメリカ各地を訪問。"スズキの衝撃"とマスコミや教育・音楽界から評価を受け、圧倒的な成功をおさめた。イーストマン音楽学校でヴァイオリンを学んでいたベネズエラからの留学生、フランク・ディ・ポロもテン・チルドレンを目の前で体験。スズキ・メソードに対する海外での評価も高まり、ドイツ連邦共和国政府よりの功労勲章一等功労十字章はじめ、数々の受賞、欧米の大学より名誉博士号の贈呈が相次いだ。

1965年(昭和40年)66~67歳

6月、海外初の指導者講習会をアメリカのオベリン、ボルチモア、イリノイ、シアトルで開き、スズキ・メソードを直接教授。



スズキ・メソードを知る上で、現在もバイブルとなっている鎮一の著書「愛に生きる」(講談社現代新書)。現在は装丁も新しくなり、世界中で翻訳され、版を重ねている

1967年(昭和42年)68~69歳

3月26日、第13回全国大会開催。アメリカ弦楽指導者協会のヴァン・シックル、カール・シュルツの両博士が出席。5月、「才能教育通信」(タブロイド判)を旬刊から月刊とし、現在に至る。同月、A5判、雑誌型、季刊「才能教育」を本部より創刊、現在に至る。6月、アメリカ・ルイビル大学より名誉音楽博士号を受ける。8月、松本市深志に才能教育会館落成。同月、第18回夏期学校にアメリカ弦楽指導者協会メンバー68名が参加。10月、第3回訪米演奏旅行。

1960年(昭和35年)61~62歳

5月、『奏法の哲学~音に座禅して三十年』、12月、『歩いて来た道』を音楽之友社より出版。



鎮一がお礼を申し上げるために近寄ると、カズルスは鎮一を抱き、その肩で涙を流した

1961年(昭和36年)62~63歳

4月、チェロの巨匠パブロ・カザルス来日。東京・文京公会堂で400人の子どもたちの合奏を聴き、感動のあまり「世界のどこにおいても、このような愛情と誠実の心をみることはできない。高い心と高貴な行ないで人生の第一歩を踏み出せるのは、なんと素晴らしいことであるか。しかもその方法が音楽とは!おそらく、世界は音楽によって救われるでしょう」と語り、鎮一を抱きしめた。11月、信濃毎日文化賞受賞。

1962年(昭和37年)63~64歳

3月、第8回全国大会参加のため、ジョン・ケンドール教授再来日。スズキチルドレンによる訪米演奏旅行が具体化。



全国大会でのケンドール先生(左)。後年のインタビューでスズキ・メソードは人・アイデア・時・場所がうまく作用した結果と評した。「正しい人が良い考えを持って、正しい時、正しい場所に集まると素晴らしいことが起こるのです」

1963年(昭和38年)64~65歳

3月、オベリン大学のクリフォード・クック教授初来日。訪米演奏旅行の招聘を確認。同月、横浜文化体育館にて第9回全国大会、第11回卒業式開催。ピアノ科で初の卒業生を出す。

海外からも高い評価を得た 70代

1968年(昭和43年)69~70歳

4月、才能教育研究会の姉妹機関「幼児開発協会」が東京で設立。翌年、財団法人となる。会長は井深大・ソニー社長(当時)。7月、後にアメリカ・スズキ協会の初代会長になるテネシー大学教授のウィリアム・スター先生が、奥様と子どもたち8人を連れて来日。1年2ヵ月にわたり、鎮一の元でスズキ・メソードを観察し、記録。その後、現在に至るまでアメリカでのスズキ隆盛の端緒となった。

1969年(昭和44年)70~71歳

3月、『幼児の才能教育』を明治図書より出版。11月、ベルギーのユージーヌ・イザイ財團よりイザイ賞を授与される。12月、『才能開発は0歳から』を主婦の友社より出版。高橋利夫とともにフルート科を創設した。

1970年(昭和45年)71~72歳

3月2日、首相官邸で才能教育の生徒30名による演奏会開く。佐藤栄作首相と育児政策をめぐり懇談。同月、ピアノ科第1回卒業式を東京・主婦の友講堂で挙行、卒業生139名。4月13日、大阪万国博覧会・国連デーに国連の依頼でウ・タント事務総長ら126ヵ国代表を前に、お祭り広場で1,000名の子どもたちが大合奏、感銘を与える。同月、『鈴木メソードによる幼児の能力開発』を三省堂より出版。11月、勲三等瑞宝章授与される。同月、アメリカ・イーストマン音楽学校より名誉博士号を受ける。12月、『わたくしの幼児開発論』(井深大・茅誠司と共に著)講談社より出版。

1971年(昭和46年)72~73歳

7月、第22回夏期学校を松本市で開催。参加者が初めて1,000人を越し(1,100名)、前班、後班に分かれて行なう。8月、『才能開発の実際』を主婦の友社より出版。アメリカのウィリアム・スター先生は、70年に鈴木先生のレッスンを記録した動画をベネズエラに持参。この年、テネシー大学で学ぶスズキの子どもたちを連れ、ベネズエラ交響楽団とカラカスで共演。73年にも同様の交流を重ね、エル・システム誕生に少なからず貢献した。

1972年(昭和47年)73~74歳

2月、アメリカ・ロチェスター大学より名誉音楽博士号授与される。作曲家イーゴル・ストラヴィンスキーに次いで2人目の栄誉。3月、フルート科で初の卒業生を出す。

1973年(昭和48年)74~75歳

5月、フィラデルフィアで開かれた人間能力開発世界大会で、人間能力開発機構スペクトラ賞を受賞。10月、パブロ・カザルス死去。



アメリカでは大都市ばかりではなく、オレゴン州ペンドルトンのような小都市でも、熱烈な歓迎と鎮一の意欲的な指導が展開された



松本の才能教育会館で追悼演奏会開く。同月、フルートの巨匠マルセル・モイーズが才能教育研究会の招きで初来日、各地で講習、演奏会を開き、日本フルート界に大きく貢献した。1977年の再招聘時にも日本フルート界の重鎮から未来を託された若いフルート奏者たちが松本に結集した。



1973年、フルートの巨匠、マルセル・モイーズを招き、各地で公開レッスンを開催。写真は才能教育会館にて

1974年(昭和49年)75~76歳

9月、アメリカ・カナダへの10回目の演奏旅行。ロサンゼルスでの最初の演奏会がテレビ放映され、全米1,000万人が視聴。同月、鎮一の代理としてワルトラウト夫人がフィラデルフィア人間能力開発研究所会長グレン・ドーマン博士の招きで渡米、27日間にわたり各地の才能教育研究者、指導者と懇談。

1975年(昭和50年)76~77歳

5月、第1回チェロ全国大会を愛知県文化講堂で開催。6月26日から第1回世界大会をハワイで開く(7月5日まで)。日本、アメリカ、オーストラリアなどから872名参加。ベネズエラにて経済学者で音楽家のホセ・アントニオ・アブレウ博士とベネズエラ交響楽団でヴィオラ奏者を務めたフランク・ディ・ポロによって「音楽の社会運動」としてエル・システムが設立された。

1976年(昭和51年)77~78歳

4月14日、東京・郵便貯金ホールで鈴木鎮一喜寿祝賀演奏会開催。江藤俊哉、豊田耕児、小林武史・健次、浦川宣也ら門下生多数が祝賀演奏。8月、アメリカ各地の夏期学校に招かれ、サンフランシスコ、ウィスコンシン、ロチェスター、シアトルと、約40日間にわたり指導、大歓迎を受ける。ウィスコンシンでは約3,000名もの参加者があった。9月、徳川義親、才能教育研究会名誉会長死去、享年90歳。10月、第6回モービル音楽賞受賞。

1977年(昭和52年)78~79歳

6月17日、才能教育運動10年の歴史を持つカナダのエドモントンで開かれた夏期学校に招かれて指導。帰路ハワイでの第2回世界大会(6月26日~7月5日)に出席。参加者は日本、アメリカ、オーストラリアなどから621名参加。

1978年(昭和53年)80歳

1月、松本市で開かれた第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。2月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。3月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。4月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。5月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。6月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。7月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。8月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。9月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。10月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。11月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。12月、第1回モービル音楽賞受賞者表彰式に出席。



1976年、鎮一の喜寿を祝い、江藤俊哉、豊田耕児、小林武史、小林健次、浦川宣也の各氏による祝賀演奏が行なわれた

1978年、米200名の子どもたちが親善コンサートに出演。カーター大統領と握手する鎮一。この様子は全米135局のテレビ局を通して全米に放映された

年齢を感じさせず、精力的な活動を続けた 80代

1978年(昭和53年)79～80歳

4月9日、ワシントンのケネディ・センターで、日米各100名の子どもたちによる親善コンサートを開く。出席していたカーター大統領は、演奏後、鎮一と子どもたちを激励。ニューヨークのカーネギー・ホール、ジョージア州アトランタでも同様の演奏会を開催。アトランタ市では3人目の名誉市民に推戴される。同月28日、松本市にスズキ・メソード研究所落成。8月、サンフランシスコで日本、アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリス、フランス、ドイツ、デンマーク、スイスの各国から指導者約1,000名が参加し、第3回世界大会開催。10月23日、中国・鄧小平副首相来日歓迎レセプションが首相官邸で開かれ、30人のスズキチルドレンが演奏。福田赳夫首相以下全閣僚、野党党首も出席。

1979年(昭和54年)80～81歳

4月、アメリカ・ユタ州のソルトレーク市の招きで生徒30名とともに訪問。タバナクル・ホールでの演奏会には6,000名の聴衆が詰めかけ、大歓迎を受ける。6月、ミュンヘンで世界14カ国の代表者668名が参加し、第4回世界大会開催。会期中に「国際スズキ協会」(ISA)の結成を宣言。10月、ペルー、アメリカ、メキシコへ45日間の海外演奏旅行。11月1日、松本市名誉市民に推挙される。ベネズエラ政府官公庁からの要請で、鎮一の初期の弟子の一人でヴァイオリニストの小林武史が国際交流基金の文化使節としてベネズエラに3ヵ月滞在。スズキ・メソードを伝えた。

1980年(昭和55年)81～82歳

8月、ロンドンの王立音楽大学で開かれた第1回ヨーロッパ指導者合同研究会に出席。イギリス、デンマーク、ベルギー、フランス、オランダ、ドイツ、スウェーデン、スペイン、アイルランド9カ国のスズキ・メソードの指導者、生徒、父兄700名が参加。BBC放送はじめマスコミが大きく報道。滞在中、チェロの大家ロストロポーヴィチと歓談。10月、初のオーストラリア訪問。シドニー、メルボルンなどの卒業コンサートに出席。同月、松本にて社団人才能教育研究会創立30周年記念式典を盛大に挙行。

1981年(昭和56年)82～83歳

4月、第2回ヨーロッパ合同研究会出席のためドイツ経由でデンマークへ。経由地インゴルシュタットでは市立施設として「スズキ学院」が設立され、開設式に出席。ヨーロッパで10年の才能教育の歴史を持つデンマークにおける合同研究会には10カ国から指導者100名が参集。7月、アメリカ・マサチューセッツで14カ国1,200名が集まり第5回世界大会開催。ブラジル、フィンランド、イスラエルから初参加。次回開催地を才能教育発祥の地、日本と決定。

1982年(昭和57年)83～84歳

4月、ベルギーの第3回ヨーロッパ合同研究会に出席。5月、ソロプロミスト日本財団から第1回千嘉代子賞受賞。6月、恒例の海外演奏旅行のほかにヨーロッパだけをめぐる演奏旅行始まる。約1ヵ月イギリス、スウェーデン、ベルギー、アイルランドを10名の子どもたちと6名の指導者が訪問。7月、フランスから教育功労勲章授与される。10月、アメリカ・スズキ協会(SAA)の招きで、イリノイ州、ペンシルヴァニア州などを訪問。同月2日、イリノイ州シカゴにレーガン大統領の歓迎の書簡(9月30日付)が届く。イリノイ州議会が10月3日を「スズキ・デー」と決議、州知事から証書を受ける。

同月6日、ペンシルヴァニア州議会もその功績を讃えるメッセージを発表、同州モンロー市長より名誉市民に推戴(すいたい)される。

1983年(昭和58年)84～85歳

3月、日米のスズキチルドレン22名が初の訪中。上海、西安、北京で演奏会とワークショップ開催、「熱烈歓迎」を受ける。4月、ロンドンの第4回ヨーロッパ合同研究会、各国代表250名を指導。7月、第6回世界大会を松本で開催。井深大・名誉会長は「松本で生まれた才能教育が、海外で大きく育ち、今故郷に帰ってきた」とあいさつ。22カ国1,500名が参加。東京での14日の歓迎レセプション、15日の歓迎コンサート(NHKホール)を皮切りに、21日まで松本市で市をあげての行事が盛大に挙行。第34回夏期学校には、各国代表400名が参加。9月、ドイツ民主共和国・文化省の招きでスズキチルドレン81名の弦楽合奏団が東独初の演奏旅行を12日間行なう。10月、国際交流基金賞受賞。



1983年、スズキ・メソード発祥の地、松本で初めて世界大会を開催。鎮一の喜びも、そして松本市民たちの驚きも相当なものだった

1984年(昭和59年)85～86歳

3月、第32回卒業式、第30回全国大会を開催、ピアノ科卒業式も4地区で挙行。エヴリン・ハーマン著『才能は愛で育つ—鈴木鎮一の人と哲学』(主婦の友社刊)。4月、ドイツ・スズキ協会研究会(西独・ランダウ)とヨーロッパ・スズキ協会第5回大会(仏・リヨン)に参加。5月、シカゴの第1回アメリカ・スズキ協会大会に出席。オベリン大学では名誉音楽博士号を受ける。第26回全国指導者研究会。5月～6月、第2回ヨーロッパ演奏旅行。7月25日～8月6日、第35回ヴァイオリン・チェロ・フルートの夏期学校と第6回ピアノ科夏期学校。8月5日～18日、アメリカ・スズキ夏期学校へ。9月、第10回チェロ全国大会。10月、第20回海外演奏旅行。同月13日、カーネギー・ホールの主催で10名のスズキチルドレンが公演、3大ネットワークのABC、NBCが全米にテレビ放映。12月、『鈴木鎮一全集』全8巻を双柳舎より刊行。



1985年、イタリア・ヴェネチア賞協会からヴェネチア賞を授与された

1985年(昭和60年)86～87歳

3月、ドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字賞を授与される。4月、イタリア・ヴェネチア賞協会よりヴェネチア賞を授与される。8月、カナダ・エドモントンで開催された第7回世界大会に出席。



1986年12月、開館したてのサントリーホールでの「米寿記念コンサート」。佐藤陽子、小林健次、江口有香、水島愛子らも駆けつけた

1986年(昭和61年)

87～88歳

米寿記念コンサート「鈴木鎮一と“キラキラ星”たち」がサントリーホールで開かれる。



1987年8月に西ベルリンで開催された第8回世界大会に夫妻で出席。半世紀以上昔の留学時代のさまざまなシーンが二人の脳裏に去来した、感動の時間だった

1987年(昭和62年)

88～89歳

8月、西ベルリンで開かれた第8回世界大会に出席。

人々の心に深く宿り続けた 90代

1989年(平成元年)90～91歳

7月、第9回世界大会を松本で開催。



2008年1月、鈴木鎮一没後10年&生誕110年×モリアルコンサートが、まつもと市民芸術館ホールで開催された

1990年(平成2年)91～92歳

5月、クリーブランド音楽大学より名誉博士号を授与される。引き続き、サンフランシスコで行なわれたアメリカ・スズキ協会大会に出席。スコットランドにて行なわれた第9回国際スズキ・ヨーロッパ大会に出席。イギリス・セントアンドリュース大学より名誉博士号を授与される。

1991年(平成3年)92～93歳

1月、オーストラリア・アデレードにて開催された第4回パンパシフィック大会、第10回世界大会に出席。英國サンデータイムス紙の特集「20世紀をつくった1000人」の中の1人に選ばれる。

1992年(平成4年)93～94歳

5月、アメリカ・イサカ大学より名誉博士号を授与される。

1993年(平成5年)94～95歳

4月、アメリカ・メリーランド大学より名誉博士号を授与される。8月、韓国ソウルで開催された第11回世界大会に出席。10月、「95歳祝賀コンサート」が松本市で開催される。

1994年(平成6年)95～96歳

5月、サントリーホールにおいて「95歳祝祭コンサート」が開催される。世界で活躍するスズキ・メソード出身の演奏家たちが駆けつけて盛大に行なわれる。

1996年(平成8年)97～98歳

1月、95歳祝祭コンサートにて、子どもたちに囲まれて「キラキラ星変奏曲」を聴く鎮一とワルト夫人

長年の功績に対しての表彰は、日本でよりも世界からの方が圧倒的に多い。英國セントアンドリュース大学からも名誉博士号を授与された(1990年)

1997年(平成9年)98～99歳

専修学校国際スズキ・メソード音楽院開校。名誉校長に就任。

1998年(平成10年)

松本市内の自宅で妻のワルトラウトたちに看取られながら、1月26日永眠。享年99歳。

2008年(平成20年)

没後10年&生誕110年を記念する鈴木鎮一メモリアルイヤーが松本(1月25日)を皮切りに、2009年3月の第52回グランドコンサートまでの1年間、全国各地で開催された。12月、ドゥダメルが指揮をするエル・システムのオーケストラ、シモン・ボリバル・



誕生日やご命日はもとより、夏期学校などで松本を訪れた時に、今も多くの生徒さんやかつての生徒さんが、松本市郊外の中山靈園を訪ね、献奏することも多い

2011年(平成23年)

3月11日、東日本大震災発生。3月29日に日本武道館で開催を予定していた第53回グランドコンサートは中止を余儀なくされた。

2012年(平成24年)

3月、エル・システムジャパン設立。音楽を通して生きる力を育むシステムとして、5月より、東日本大震災の被災地の一つ、福島県相馬市と協定を結び、活動がスタートした。

2013年(平成25年)

10月、甲信地区指導者会主催で「鈴木鎮一先生生誕115年記念コンサート」を開催。

2014年(平成26年)

3月、「テン・チルドレンの50年」をサントリーホールで開催。クールジャパンの先駆けとして31年間に20カ国384都市で483回のコンサートを開催し、文化交流・民間外交に寄与した「テン・チルドレン」の功績を振り返った。岩手県大槌町でもエル・システムジャパンが被災地の子どもたちに寄り添う活動をスタート。関東地区ヴァイオリン科指導者の上杉理香先生ご夫妻によるサポートが大きなきっかけとなった。

2018年(平成30年)

4月4日、鈴木鎮一先生生誕120年記念第54回グランドコンサートを天皇・皇后両陛下、高円宮妃殿下ご臨席のもと、両国国技館で開催。エル・システムジャパンの相馬子どもオーケストラと大槌子どもオーケストラの子どもたちが招待演奏を披露。また、スズキの子どもたちと合同オーケストラを組み、ベートーヴェンの交響曲第7番第4楽章を同じステージで初共演。

参考文献:「鈴木鎮一と才能教育」別巻2写真集(双柳舎)

「日本のヴァイオリン王」(井上さつき著、中央公論新社)

「グランドコンサート第52回プログラム」(才能教育研究会)

機関誌各号(才能教育研究会)

構成:新巳喜男



ご協賛ありがとうございました



早野 龍五

スズキ・メソード 関東地区三科指導者会

ITA,Inc.Japan東森大輔

株式会社 伊藤楽器

井上 博文

北澤 久美子

木村 真一

黒木 佐久子

河野 京子

斎藤 眇

櫻井 幸子

佐藤 満

市東 洋子

末廣 悅子



高木 康太郎・麗

永田 香代野

西村 うの

黄 京益

松井 やすよ

守屋 栄

沖縄地区 ピアノ科

才能教育研究会 関東地区ピアノ科

才能教育研究会 仙台支部

才能教育研究会 チェロ科

スズキ・メソード 吉祥寺センター

トウインクル音楽院（旧品川支部）



株式会社 テレビ松本ケーブルビジョン

株式会社 ジェップ

有限会社 バイオリンリサーチ

藍川 真琴

藍川 明子

秋葉 美佐子

井上 恵子

井深 太郎

岩倉 浩美

江副 留美子

小野田 泰子

金田 彩音

神山 玲子

川野 俊彦

小寺 真美

桜井 はるな

佐古 健一

佐藤 文子

佐藤 康光

佐野 登喜男

清水 緋菜子

清水 優

新 巴喜男

給田 俊哉

高木 洋子

堤 剛

伝田 充正

奈良 龍二

野澤 久美子

服部 美咲

服部 真一郎

服部 宏美

堀 けい子

本田 佐由里

本多 孝子

三谷 紀子

峯岸 靖子

宮坂 勝之

宮地 若菜

宮前 翠

村尾 忠廣

守田 千恵子

米原 徹

小田急第一部

才能教育研究会
ピアノ科埼玉西ブロック

才能教育研究会
宇都宮支部 西那須野教室

静岡県東部ピアノ科

静岡県ピアノ科中・西部有志

スズキ・メソード 北多摩

スズキ・メソード 新大阪

スズキ・メソード 秋田教室

東海「愛に生きる」講読会

東名古屋支部 國分康代クラス

横浜牧野ヴァイオリン教室

第54回スズキ・メソードグランドコンサートは
上記の企業・団体の皆様、OB・OG、個人の皆様にご支援をいただきました

(3月7日現在)



第54回グランドコンサートの開催おめでとうございます。

ロビーにて全サイズ試奏ブース出展中です。どうぞご自由にお試しください。



感動をともに・創る

ちいさくても「本格派」。

ヤマハ・ブリビオールはお子様の成長に合わせた、豊富なサイズをご用意しています。

天然木の削り出し製法で作られたボディを、オイルニスで丁寧に仕上げた、

ちいさくても「本格派」のバイオリンにしか出せない、クリアで明るい音色が特徴です。

アジャスターをテールピース一体型にすることで軽量に抑え、

小さなお子様にも安心してお使いいただけます。

V5SC

¥57,000(税抜)

●サイズ

$\frac{1}{16}$ $\frac{1}{10}$ $\frac{1}{8}$ $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{2}$ $\frac{3}{4}$

●表板:スプルース

●裏板・横板・ネック:メイプル

●指板:黒檀(エボニー)

●仕上げ:オイルニス仕上げ

●ベグ・頸当て:黒檀(エボニー)

●駒:ヤマハオリジナル

●テールピース:アジャスター一体型(Wittner社製)

●弦:フレリュード

●付属品:弓(ブラジリアンウッド)、

松脂、ケース(三角型)



“ブリビオール”
Braviol

ヤマハ 分数バイオリン

“安心の”V5SCシリーズ

“こだわりの”V7SGシリーズ

身長による選択目安

$\frac{1}{16}$ 105cm以下 $\frac{1}{4}$ 115～125cm

$\frac{1}{10}$ 105～110cm $\frac{1}{2}$ 125～130cm

$\frac{1}{8}$ 110～115cm $\frac{3}{4}$ 130～145cm



V5SC

V7SG

V7SG

¥82,000(税抜)

●サイズ

$\frac{1}{8}$ $\frac{1}{4}$ $\frac{1}{2}$ $\frac{3}{4}$

※V7SGは4/4(フルサイズ)もご用意しています。

●表板:スプルース

●裏板・横板・ネック:メイプル

●指板:黒檀(エボニー)

●仕上げ:オイルニス・シェイディング仕上げ

●ベグ・頸当て:黒檀(エボニー)

●駒:オーベルト

●テールピース:アジャスター一体型(Wittner社製)

●弦:ヘリコア

●付属品:弓(ブラジリアンウッド)、

松脂、ケース(三角型)



●規格および仕様は、改良の際、お断りなく変更する場合があります。●印刷された商品の色調は、実際の商品と多少異なる場合があります。●記載の商品の価格はすべてメーカー希望小売価格で税抜金額を表示しています。

■ヤマハ弦楽器ホームページ <https://jp.yamaha.com/strings/>

■お問い合わせ【株式会社ヤマハミュージックジャパン 鍵盤・管弦打楽器部】〒108-8568 東京都港区高輪 2-17-11 TEL.03-5488-1690

または、【お客様コミュニケーションセンター管弦打楽器ご相談窓口】ナビダイヤル:TEL.0570-013-808

※つながらない場合は053-411-4744へおかけください。

営業時間:月～金 10:00～17:00(土曜・日曜・祝日・センター指定休日を除く)

株式会社ヤマハミュージックジャパン

第54回スズキ・メソード グランドコンサート

スタッフ

大会委員長	早野 龍五
大会副委員長	木村 真一 末廣 悅子 永田 香代野
実行委員長	佐藤 満
実行副委員長	荒木 千香子 小川みよ子
実行委員	藍川 政隆 油 さよ子 五十嵐 佳以 池田 玲子 石戸 寛子 上杉 理香 川沼 顯 土屋 育代 館石 奈木子 田中 陽子
各科委員	チェロ:宮田 豊 ピアノ:神田 淳子 フルート:中田 英里
ピアノ伴奏	石川 咲子 臼井 文代
アナウンス	北代 裕子
インタビュアー	鶴川 享子
翻訳	郷原 悠美 島野 ロンダ
賛助出演	(一社)エル・システムジャパン 「相馬子どもオーケストラ」「大槌子どもオーケストラ」
作曲 編曲	加藤 千春
楽器提供 運搬	カシオ計算機株式会社
編集	新 巴喜男
デザイン	シータグラフィックワークショップ (小清水 孔美)
イラスト	伴 翔人
会場設営	株式会社ムラヤマ (塚田、森、佐々木)
フラワーデザイン	BREEZE WAY
事務局	(公社)才能教育研究会 本部事務局 東京事務所
ピアノ調律	ピアノY工房 (山下)
救護	一般社団法人 日本救護救援財団

本日のコンサートについてのアンケートにご協力ください

パソコン／スマホ

スズキメソード

検索

グランドコンサート

どうでしたか？

<http://www.suzukimethod.or.jp/>





弦楽器専門店  ゴーチュ

(JR 恵比寿駅西口徒歩 1 分)
東京都渋谷区恵比寿南1-7-8 ニューライフ恵比寿310 ☎ 03(3711)7054
E-MAIL info@gaucho-sons.co.jp HP <http://gaucho-sons.co.jp/>

 BUNKYO GAKKI

VIOLIN, VIOLA, CELLO & CONTRABASS

Old, Modern & Contemporary

厳選した楽器・弓から最高の一挺を

Repair & Rehairing

専門性の高い修理修復・毛替え

Consulting

鑑定・買取・委託販売

Events & Concerts

イベント・サロンコンサート

BG Newsletters

弦楽器専門メルマガ 配信中

Our Shop

後楽園駅 丸の内線【4b出口】/南北線【8番出口】
春日駅 三田線・大江戸線【6番出口】



@bunkyogakki

@bunkyogakki



“すべてはプレーヤーの喜びのために”

株式会社 文京楽器 〒112-0002 東京都文京区小石川 2-2-13 1F ☎ 03-5803-6969 📩 support@bunkyo-gakki.com

Pygmalius per Orchestra

日本発、世界の弦楽器ブランド

過去の名工たちに学んだ知識と経験を、現代の楽器・弓づくりに生かす。そのジャパン・クオリティは国内のみならず、世界の演奏家から高い評価を得ています。

Archet's Premium Rosin
R03: Alto

Archet CUNIOT HAUSSET Peccatte model

Webサイトリニューアル! ☎ 03-5803-6969 📩 support@bunkyo-gakki.com

全機種取扱店 株式会社 文京楽器 〒112-0002 東京都文京区小石川2-2-13 1F 製造元 株式会社 アルシエ 〒250-0876 神奈川県小田原市中新田328-3 TEL: 0465-48-8851

弦楽器工房かわばた

TEL.045-261-5300

〒231-0063 横浜市中区花咲町2-77
大久保ビル2F

至井土ヶ谷 本町小学校 ファミリー マート ひおシティ もみじ坂 国道16号線
至関内 JR桜木町駅 根岸線 至横浜

感動遺産。

本物のステージが魅せる迫力。肌身で感じた実体験は、

多くの人の心に大きく響くに違いありません。

その感動を子どもたち、さらにその先の子どもたちへ遺してゆきたい。

これからも変わることのない清水建設の想いです。

感動の場を創造し、守り続けることも、

「子どもたちに誇れるしごと」のひとつです。

SHIMIZU CORPORATION の
清水建設

子どもたちに誇れるしごとを。

スズキ・メソードOB・OG会が活発に活動を続けています。



★これまでの活動の歴史と 2018年の活動予定

2010年

- ・5月16日「OB・OG会第1回コンサート」開催①
渡辺玲子さん（ヴァイオリン）と共に（指揮・豊田耕児）
- ・6月10日「全国指導者研究会」でOB・OG会スタート報告
- ・9月23日「楽器を持って集まろう会」開催
- ・12月12日「スズキ・メソード三重大会 with Yasuko Ohtani」に賛助出演

2011年

- ・3月5日「室内楽を楽しむ会」開催
- ・5月8日「OB・OG会第2回コンサート」開催②
大谷康子さん（ヴァイオリン）と共に
- ・7月7日 公式サイトをリニューアル
- ・9月17~18日「松本散策ツアー」開催
- ・10月8日「アンサンブルを楽しむ会」開催
- ・10月30日「第24回東海地区大会」に賛助出演

2012年

- ・1月15日「第12回関西地区大会」に賛助出演
- ・5月20日「OB・OG会第3回コンサート」開催③
宮田大さん（チェロ）、若手OB・OG（ピアノ）と共に
- ・9月22~23日「楽器を持って集まろう会in松本」開催
- ・11月24日「カルテットを楽しもう会」開催

2013年

- ・「第16回世界大会」を支援
- ・3月28~30日「世界大会」期間中にOB・OGラウンジ開設
- ・5月6日「OB・OG会第4回コンサート」開催④
江澤聖子さん（ピアノ）と共に（指揮・金森圭司）
- ・10月5~6日「鈴木鎮一先生誕115年記念コンサート」に参加

★OB・OG会への入会方法

一生楽しめるスズキ・メソードをめざして」旗揚げしたOB・OG会（木村真一会長）は、「心のふるさと、キラキラ星」を共有する仲間同士、楽器の違いや世代の違い、育った地域の違いを越え、楽しく活動を続けています。各界で活躍されているOB・OGの皆さん、子どもの頃にタイムスリップしながら、楽器を持ち寄って楽しむ姿は、鈴木鎮一先生の願いでもありました。入会するには、QRコードからアクセスしてください。かつての生徒さん、現在の大人会員のみなさん、指導者の先生方、みなさんで楽しみましょう。



2018年5月13日(日)に第23回アンサンブル・フェスティバルと一緒に、OB・OG会第11回コンサートを国立オリンピック記念総合センター大ホールで開催します。今回は、ヴァイオリン科出身の若手ヴァイオリン奏者たちとヴィヴァルディの「4つのヴァイオリンのための協奏曲」やグリーグの「2つの悲しき旋律」、パッフェルベルの「カノン」などを演奏します。昔懐かしいヴィヴァルディのa-mollなどでは、飛び入り参加の子どもたちも大歓迎です。詳しくはQRコードから。お問い合わせはメールで。

<http://www.suzukimethod-obog.com/>

お問い合わせもご入会も、HPで簡単にできます。
OB・OG会事務局 info@suzukimethod-obog.com



ラキュー
LaQ[®]
Innovative and Creative



対象年齢5歳~

POINT なんでも自由に作れるブロック

LaQ(ラキュー)は、7種類のパートをつなげて、いろいろなものがつくれる不思議なブロック。



LaQは、プラスチック製のブロックを使って平面から立体、球体まであらゆるカタチが表現できる、今までにないタイプの知育玩具です。パートの組み合わせだけで小さな曲面や球体が作れるのは、数あるブロックの中でもLaQだけ！保育園や幼稚園、学童保育所などにも導入され好評をいただいている。



2018.4.14 土 ≪ 15 日

開催時間

【14日】【15日】10:00-17:00 各回入替制

会場

サンシャインシティ ワールドインポートマートビル 4F 展示ホール A-1

どの子も育つ、育て方ひとつ

学校法人才能教育学園 白百合幼稚園



はじめは頼りなげな小さな芽が、太陽の光や雨水や、土壤の豊かな栄養分に支えられて、大空に向かってぐんぐん育つように。たくさんの愛情を受け、豊かな経験をし、心を震わせ、子どもたち一人ひとりの持つ可能性が未来に大きく花開くことを願って。

〒399-0036 松本市村井町南4-6-4
Tel.0263-86-1084 Fax.0263-86-3268

<http://www.shirayuri-kg.com>
E-mail:shirayurikg@poa.matsumoto.ne.jp

いつも、まごころ
いっぱいに。



井上本店



井上アイシティ21店

井上百貨店と魅力的な専門店が集合!
アミューズメント& ショッピング アイシティ21

2F 全6スクリーン! 総席数 755
快適空間と迫力のサウンド「アイシティシネマ」
i city CINEMA
お問い合わせ (0263) 97-3892

無料駐車場
2000台

井上 CITY₂₁
アミューズメント & ショッピング
アイシティ21 TEL. (0263) 98-4521

井上 空港店 安曇野市穂高北穂高

井上エアポート店 松本空港
ターミナルビル1階

井上婦人服専門店 ラミューズアイ
松本駅前 アルピコプラザホテル1階

〒390-8507 松本市深志2-3-1 TEL.(0263)33-1150
ご覧ください。井上ホームページ <http://www.inouedp.co.jp>

未来に繋がる感動をつくる

印刷・企画・デザイン・Web・電子書籍・出版

電算印刷株式会社 〒390-0821 長野県松本市筑摩1-11-30
本社 TEL 0263-25-4329 FAX 0263-25-9849
東京営業所 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10-3 スリースタービル
TEL 03-5226-0126 FAX 03-5226-3456

 電算印刷
for your DECENT PROSPERITY
<https://densan-p.jp/>

木の温もりと共に70年

弊社は、おかげさまで今年創業70周年を迎えることができました。創業以来一貫して、木の温もりを活かした住まいづくりを追求してまいりました。そしてこれからも「感謝と奉仕」をモットーに、お客様の笑顔のために、社員一同より一層の努力を重ねてまいります。



リノベーションスタジオ

Woody Sweet
Produced by Rinyu Home

林友ならではの木質感漂う空間を演出しております。
お近くにおいでのお際は、是非お立ち寄りください。

建築事業部 松本市本庄 1-17-13

TEL 0120-858-853



美しい響きを生む
林友の無垢建材


カナダ杉をはじめとする林友の無垢建材は、保温性・調湿性など本来木の持つ優れた特性とともに、木の香り、美しい木目と色調、自然な音の響きで、五感に優しい居心地のよいお部屋を実現します。



祝
第54回
スズキ・メソード
グランドコンサート

昨年生まれたばかりの
林友オリジナルキャラクター

林友の
りんくま。です。
よろしくお願ひします。



株式会社 **林友**

〒390-0841 長野県松本市渚4-1-1
木材センター TEL 0263(25)0171
建材センター TEL 0263(28)7700
総務経理部 TEL 0263(29)1232


**TOKIO MARINE
NICHIDO**



これまで長きに渡り公益社団法人才能教育研究会様を側面からお守りさせていただいた実績と、東京海上日動のトップ・クオリティ代理店としての誇りを胸に、アルファ・ファイブはこれから多くのお客様から選ばれる存在となれるよう全力を尽くして参ります。

東京海上日動火災保険株式会社 代理店
東京海上日動あんしん生命保険株式会社 代理店
株式会社アルファ・ファイブ

松本市中央2-1-24 五幸本町ビル2F
Tel. 0263-37-5737 Fax. 0263-37-5738

学校法人 国立音楽大学

KUNITACHI COLLEGE OF MUSIC
<http://www.kunitachi.ac.jp/>

—自由・自主・自律の精神—



附属幼稚園 〒186-0004 東京都国立市中 1-8-25 TEL. 042-572-3533
附属小学校 〒186-0005 東京都国立市西 1-15-12 TEL. 042-572-3531
附属中学校 音楽コース・普通コース 〒186-0005 東京都国立市西 2-12-19 TEL. 042-572-4111
附属高等学校 音楽科・普通科 〒186-0005 東京都国立市西 2-12-19 TEL. 042-572-4111
国立音楽大学 〒190-8520 東京都立川市柏町 5-5-1 修士課程・博士後期課程
TEL. 042-536-0321

www.suzukimethod.or.jp/